

研究の成果と課題

【成果】

- 地域を題材にしたことで児童は地域に親しみを持ち、様々な視点で見られるようになった。
- 年間指導計画や授業の内容を見直し、刷新できた。
- 子供の発想を大切に授業を進めてきた。児童主体の探求的な活動ができた。
- 発表の対象(異学年)があることで発表の内容が深まった。
- 単元指導計画に他教科の関連を入れることで指導が明確にできた。
- ICT 機器を活用したことで地図と写真が一致し、児童の知識が深まった。
- 課題設定→体験→情報収集・分析のスパイラルを意識した学習活動をするので、自ら学習課題を設定する児童がいた。

【課題】

- 学習の横の内容は整ってきたが、縦がバラバラで同じ内容を別の学年がやっているなどがあったので、縦のカリキュラムを検討する必要がある。教育課程を見直す。
- 教師の思いだけで授業づくりが行われがちなので、指導要領に準じて、地域の特色を生かしたカリキュラムデザインを考えねばならない。
- 単元のゴール(終わり方)が明確でなかった。相原を知ってどう活用するのかを教師があらかじめもっておくことが大切ではないか。
- 探究的な活動を通して基礎基本の力を身に付ける必要がある。

ご指導いただいた講師の先生

武蔵野市教育アドバイザー

宮崎 倉太郎 先生

研究に携わった教職員

校長 百田 明弘 副校長 仙石 真也 ○研究主任

【低学年分科会】 森田 明奈(1-1)・佐藤 淳一(1-2)・犬塚 順子(2-1)・比留間 未央(2-2)
丁山 郁子(みどり)・牧野 純明(サポートルーム)・橋場 こゆき(図工)・宮本 奈美(養護)

【中学年分科会】 小木田 夏紀(3-1)・石井 美樹(3-2)・村松 史奈子(4-1)・井上 三郎(4-2)
阿部 瑞穂(みどり)・石倉 聡乃(みどり)・岩田 久沙香(サポートルーム)・西尾 智子(音楽)

【高学年分科会】 鈴木 拓朗(5-2)・三浦 幸太(5-1)・○平本 蘭子(6-1)・植田 大智(6-2)
鈴木 創大(みどり)・深澤 奈穂子(サポートルーム)・田中 健一(算数)

これからの学校教育において、よりよい社会を創るという目標をもち、その目標を社会と共有することが求められています。また、教育課程の実施に当たり、地域の人的・物的資源を活用し、地域社会と連携しながら進めていくことを目指しています。

本校では「地域について学ぶ」「地域とともに学ぶ」活動を「相っ子学習」として、各学年の活動を系統的に位置づけ、教科・行事を横断的なカリキュラム構成できるよう見直しています。特に生活科・総合的な学習の時間を通して「相っ子学習」の充実を図り、自分たちの相原に誇りを持ち、そこで育つ自分を見つめ、将来への夢や希望をもたせ、自己の生き方について考える力を育てていきます。本年度、地域との関わりを通して、子供たちが学び合い、高め合う姿を求め、研究を推進してきた取組の一端を紹介いたします。

町田市立相原小学校 校長 百田 明弘



令和6年度 校内研究

研究主題

地域との関わりを通して
共に学び合い高め合う児童の育成
～地域の特色を生かした相っ子学習の充実～



町田市立相原小学校

校長 百田 明弘

所在地 〒194-0211 東京都町田市相原町1673番地

TEL 042(771)2341 FAX 042(772)4698

ホームページ URL <https://qr.go.page.link/4UTRd>



研究構想図

学校教育目標

◎よく考える子 ○なかよく助け合う子 ○からだを大切にすること

研究主題

地域との関わりを通して共に学び合い高め合う児童の育成

～「地域の特色を生かした相っ子学習の充実～」

研究テーマ設定の理由

本校では、様々な学習で地域と連携した教育活動を行っており、児童にとって地域はとても身近なものである。さらに今年度は開校150周年を迎え、相原小の歴史や地域について触れる機会が増える。そこで、地域と連携した体験活動等のねらいや意義、行事と学習の関連、6年間の学びの関連性や系統性を整理し、「相っ子学習」として地域の人材や教材を有効に活用できるような授業を構想する。

それにより、地域の方々や友達との関わりを通して学び合い、お互いに高め合うことができると考えテーマを設定した。

目指す児童像

課題を自分事ととらえ、その問題を解決するために、柔軟に他者とかがわることができる子ども

目指す授業像

地域と連携した体験活動を工夫して学習に取り入れ、児童に問題を自分ごととしてとらえさせ、問題解決的な活動が発展的に繰り返されていく授業

研究の手立て

① 指導計画の工夫

地域を教材とした学習のねらいや意義、他教科との関連、6年間の学びの関連性を整理する。

② 課題設定の焦点化

児童がどのように課題を見つけていくかを具体的に想定し、気付いてほしいことを焦点化する。

③ 振り返りの工夫

振り返りを丁寧に行い、課題を解決したときの達成感をもたせ、意欲につなげる

研究仮説

地域を教材とした学習を整理し指導計画を工夫することで、地域の特色を生かした相っ子学習が充実し、共に学び合い高め合う児童を育成することができるだろう。

研究授業

指導案・成果と課題は、こちらをご覧ください。 →



低学年分科会

第1学年 生活科
「なつともだち」

生活科における！！
【地域をステージ】
とした学び合い！！



中学年分科会

第4学年 総合
「相っ子安全サバイバー」
～地域の防災を調べよう～

地域 × 異学年交流 × ICT



高学年分科会

第5学年 総合
「米プロジェクト」

昔から愛され主食とされてきた米。現代の抱える課題などについて子供達と一緒に考えていきました。



地域とかかわってみて、こう変わりました！！

子どもたちの声

2年 野菜

- ・これでもう私たちは、やさい名人だね。
- ・お世話になった人もよろこんで、自分たちも楽しめるパーティーができたと思った。
- ・おせわが楽しかったし、やさいもおいしかった

3年 町たんけん

- ・これで相原マスターになれたね。
- ・もっと相原のことを知りたくなったよ。
- ・相原のよさを他の人にも知らせたいな。

6年 キャリア教育

- ・園長先生の話聞いて「仕事のよいところにも大変なことがある、大変な仕事にもよいところがある」ということを知り、私にはそういう考えがなかったので、とても勉強になりました。

地域の方の声

○農家

子どもたちの姿で元気をもらっている。担任だけでなく栄養士や調理員の方々、学校全体で受け入れてくれてありがたい。

○里山の会

学校の近くに住んでいる者として顔がわかる。かかわりができて、声をかけられてうれしい。

○ボランティアコーディネーター

子どもたちが地域の皆さんに刺激を受けて「わかった」「できる」という瞬間が見られます。感謝のお手紙も読ませてもらうと発見や成長がうかがえて、すばらしいなと思っています。